

第39回福島県特別支援教育センター研究発表会

令和6年12月5日(木)福島県環境創造センター「コミュニティ福島」にて、第39回研究発表会を実施しました。『Well-being の実現に向けた特別支援教育の充実』～対話を通じた子どもの思いや願いに応える教育を目指して～』と題し、来場及びオンデマンド視聴による参加者合わせて約300名の皆様に御参加いただきました。

午前は、開会式に続き、調査研究発表、長期研究員発表、教育研究発表、教育相談係実践報告を行いました。



○ 調査研究発表

「小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に向けた研修の在り方
～特別支援教育の資質・能力を育成するために必要な研修内容・研修体系の再考～」



○ 長期研究員発表

「特別支援教育の視点を取り入れた国語科の指導の在り方
～『書き』につまずく要因の把握と効果的な指導と支援～」



○ 教育研究発表

「特別支援学校高等部における自立と社会参加につなげる自立活動の指導の在り方
～生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を目指した実践研究～」



○ 教育相談係実践報告

「本人の歩みを支える保護者とのかかわりについて」
～共に伴走する存在であるために～



午前の発表後は、調査研究と教育研究に加えて、1年次の長期研究員と福島大学教職大学院生によるポスター発表を行いました。調査研究、教育研究のポスター発表では、各研究協力校の先生方にも御協力いただき、実践について発表しました。



午後は、教育講演として、弘前大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻 教授 菊地 一文先生に、「一人一人の Well-being の実現に向けた特別支援教育の充実～対話を通した 子どもの思いや願いに応える教育を目指して～」というテーマで、御講演をいただきました。

御講演の中で、教育の目的は、「個人と社会の2つの Well-being を実現すること」や、「Agency 『自ら目標を設定し、行動し、振り返る力』を育成すること」であるというお話をいただきました。また、「他者との協働による『自分ごととしての学び』」「交流及び共同学習や地域協働活動の可能性」「自立活動における『本人の願い』への着目と対話の必要性」など、キャリア発達の支援を交えたお話から、多くの示唆をいただきました。



参加者からは、「特別支援教育という枠にとらわれず、これからの教育のあるべき姿や、教員として求められる資質などについて、学ぶことができた」、「『なぜ、何のために』という目的意識がないと主体的な学びになり難いということや、上から目線での指導ではキャリア発達につながらないというお話は、特別支援教育に限らず学校教育の全てにおいて当てはまると思った」「子どもと共感的に対話し、子ども理解を深めていくとともに、子どものできる『やりたい』を引き出すことができるようにしていきたい」などの感想が寄せられました。また、一日を通しての感想では、「学びの多い充実した一日だった」といった声を数多くいただきました。

発表会の開催にあたって、御参加・御協力いただきました多くの方々に、改めて御礼申し上げます。